

科目名	流通ビジネス論特講	担当者	シラトリ 白鳥 カズオ 和生	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>流通ビジネスは「変化対応業」であり、その歴史は「再編成」の歴史である。ここ数十年のデジタル革命によって、小売業界の「前提」が激変した。顧客の期待はデジタルのスピードで進化している。時代はリアルな実店舗とネット通販が競争するマルチチャネルからリアルとネットが融合するオムニチャネルへとシフトしている。リアル小売業はネット通販へ、オンライン小売業はリアル店舗へそれぞれ進出する動きもあり、新しい購買経験が生活者に提供されるようになっている。</p> <p>本科目はデジタル時代の小売業の変化を、単なる突発的な事象としてとらえるのではなく、その歴史的背景や経緯を踏まえつつ、「体験」がより重要性を増す今後の消費社会の変容の方向性を理解することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 問題の発見・解決能力：事象を注意深く観察し、解決策を提案できる。 ● 論理的・批判的思考力：得られる情報をも基に、論理的で批判的な思考ができる。 <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 流通業界の歴史的な進展を理解できる。 ② デジタル化が小売業や顧客体験に与える影響が理解できる。 ③ 有力小売業の戦略と変容の背景・流れが理解できる ④ デジタルトランスフォーメーション (DX) 時代における企業と消費者との関わり方、マーケティングや店舗の在り方など小売ビジネスの全体像を俯瞰できる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>Manaba-folio を活用して、双方向を重視した指導を実施する。</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① デジタル技術の急速な進化で伝統的なマーケティングや消費者対応が変化しているという認識を持ちつつも、変わらないビジネスの本質を抑える。 ② 教材、参考図書をベースに基本を理解し、新聞やシンクタンクなどの情報や小売の現場を訪ねることも研究にとって有用である。 ③ 基本教材の内容を理解し、それを自身で消化した上でレポート作成にあたる。初稿作成までに20時間程度の学修時間を確保する。数回の「添削指導」(25時間程度)を通じ、より深い理解に到達する。最終的にトータルでレポート1本45時間ほどの時間を要する。 		
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> ① 履修後、早めに学修計画の擦り合わせを行う。 ② <前期>基本教材1レポート課題1の初稿提出は2022年6月末を期限とする。 ③ <前期>基本教材1レポート課題2の初稿提出は2022年8月末を期限とする。 ④ <後期>基本教材2レポート課題1の初稿提出は2022年10月末を期限とする。 ⑤ <後期>基本教材2レポート課題2の初稿提出は2022年12月末を期限とする。 ⑥ いずれも最終稿の提出期限は学事暦に従う。 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材に対する理解、課題に対する思考のプロセスの適切であり、内容に独自性があるかを評価する。論文としての体裁がきちんと守られているかもみる。
	観察記録	20%	提出期限が守られているか、複数回のやりとりの中で修正が行われたかを評価する。
履修者への要望	<p>「マーケティング論特講」など経営系科目と合わせて履修することが望ましい。履修登録後、速やかに学習計画の擦り合わせを行うこととする。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 矢作敏行 教材名： 『コマースの興亡史』（2021年，日本経済新聞出版）ISBN:978-4532135195
	本書は，明治から令和に至る商業の近現代史をたどり，それぞれの時代の商業（コマース）の特質を描き出している。特に小売商業者の経営革新行動を中心に分析。流通革命期におけるダイエーに代表される総合量販店の成長と凋落，セブン・イレブン・ジャパンやファーストリテリングをはじめとする専門量販店の持続的な躍進を分析し，小売企業の成長戦略のための基本的な指針を示している。また，デジタル破壊，オムニチャネル化，プラットフォームなどの先端の動きについても分析し，流通・マーケティングの視点から対面形式による商業の重要性，デジタル時代の商業倫理のあり方を示している。
参考図書	小林二三夫・伊藤裕久・白鳥和生 『改訂版 ようこそ小売業の世界へ』（2017年，商業界）ISBN:978-4785505240
履修上のポイント	コマースの世界ではインターネット社会の到来により，情報的にエンパワーメントされた消費者が流通・マーケティングプロセスに積極的に関与するようになる一方，企業がその一挙手一投足をデータで把握し，消費者行動をコントロールする可能性を急速に高めている。そうした認識の上で，小売商業者の経営革新行動を分析するフレームワークとしての「小売事業モデル」を理解する。そして，なぜその経営主体が存在し，どのように社会に貢献するのかを示す「基本理念」，それをどのような事業の形にして競争を勝ち抜くのかという「市場戦略」，そして戦略を実行し収益を上げる「小売業務システム」の3層からなる分析枠組みで，戦後の小売業の興亡を追ってみる
レポート課題 1	なぜ流通革命の担い手は総合量販店から専門量販店へ替わったのかを論じてください。 留意点： 第3章から第7章までのケースと第8章「流通革命期の総括——小売事業モデルの比較分析」を踏まえてください。
レポート課題 2	なぜデジタルプラットフォームは「勝者総取り」を実現できたのかを論じてください。 留意点： デジタル変革の3つの局面を踏まえてください。
基本教材 2	
教材の概要	著者名： ダグ・スティーブンス 教材名： 『小売の未来』（2021年，プレジデント社）ISBN：978-4833424158
	本書は，アフターコロナ時代における小売業の構造変化と再編成を予測している。アマゾンやアリババ，ウォルマートなど「怪物企業」が勢力を増す中で，リアルを中心とした中小小売業が生き残るための方法を提示している。それは消費者からの「10の問いかけ」に基づき「10のリテールタイプ」に変化していくことであり，ポジショニングこそが成否を握ると指摘している。パンデミックによる危機を10年に1度の機会と捉え復活に挑むのか。本書は後者の道を選択する勇気ある小売業者に，小売りの世界と消費者行動の深層を見極める視座を与える。
参考図書	フィリップ・コトラー 『コトラーのリテール4.0』（2020年，朝日新聞出版）ISBN：978-4022516763 ダグ・スティーブンス 『小売再生』（2018年，プレジデント社）ISBN:978-4833422734
履修上のポイント	パンデミックによる危機を10年に1度の機会と捉え復活に挑むのか。教材は後者の道を選択する勇気ある小売業者に，小売りの世界と消費者行動の深層を見極める視座を与えている。デジタルトランスフォーメーション（DX）化，リモートワーク，ネット販売などコロナ禍の新たなビジネス展開は，工業化社会が「前提」としてきた，集中と対面を基本とするビジネスパラダイムの見直しを，急激かつ抜本的に迫りつつあるのだということ意識する。
レポート課題 1	これから加速するであろう「怪物企業」の戦略を簡潔に説明してください。 留意点： エブリシング・ストアとオムニプレザンスのキーワードを意識してください。
レポート課題 2	急激なパラダイムシフトと怪物企業との競合に対する中小小売業の武器は何かを論じてください。 留意点： 「10の問いかけ」と「10のリテールタイプ」を整理しつつ，考えてみてください。

基本教材 1

第 1 回	学ぶべき課題について全体を把握すべく、基本教材の構成（目次）意識しながら斜め読みする。
第 2 回	教員と意見交換し、レポート作成までのスケジュールと重点的に学修したい項目を検討する。
第 3 回	教材に基づく学修①（序章・第 1 章）
第 4 回	教材に基づく学修②（第 2 章）
第 5 回	教材に基づく学修③（第 3 章・第 4 章）
第 6 回	教材に基づく学修④（第 5 章・第 6 章）
第 7 回	教材に基づく学修⑤（第 7 章・第 8 章），レポート課題 1 のテーマを考察する
第 8 回	レポート課題 1 の初稿執筆・提出
第 9 回	レポート課題 1 の再検討，最終稿作成・提出
第 10 回	教材に基づく学修⑥（第 9 章）
第 11 回	教材に基づく学修⑦（第 10 章）
第 12 回	教材に基づく学修⑧（第 11 章・終章），レポート課題 2 のテーマを考察する
第 13 回	レポート課題 2 の初稿執筆・提出
第 14 回	レポート課題 2 の再検討，最終稿作成・提出
第 15 回	全体を通じた振り返り

基本教材 2

第 1 回	学ぶべき課題について全体を把握すべく、基本教材の構成（目次）意識しながら斜め読みする。
第 2 回	教員と意見交換し、レポート作成までのスケジュールと重点的に学修したい項目を検討する。
第 3 回	教材に基づく学修①（序章）
第 4 回	教材に基づく学修②（第 1 章）
第 5 回	教材に基づく学修③（第 2 章）
第 6 回	教材に基づく学修④（第 3 章）
第 7 回	教材に基づく学修⑤（第 4 章）
第 8 回	教材に基づく学修⑥（第 5 章）
第 9 回	教材に基づく学修⑦（第 6 章）
第 10 回	教材に基づく学修⑧（第 7 章）
第 11 回	教材に基づく学修⑨（第 8 章）
第 12 回	レポート課題 1 の初稿執筆・提出
第 13 回	レポート課題 1 の再検討，最終稿作成・提出
第 14 回	レポート課題 2 の初稿執筆・提出
第 15 回	レポート課題 2 の再検討，最終稿作成・提出